

今後の研究会の進め方と 論点 1（求められる人材像）について

令和2年10月22日

今後の研究会の進め方

○ 事務局から提示した各論点について、以下のとおり、順次、個別に議論を行う。

第1回 (9/11) 論点整理

【論点1】「今後、地方公共団体に求められる地方公務員とはどのような人材か」

第2回 (10/22) 事例発表 (3事例)

【論点2】「求められる人材を確保・育成するために地方公共団体はどのような方策が必要か」

第3回 (12/10) 事例発表①(具体の取組方策)

第4回 (1/19) 事例発表②(")

【論点3】「各地方公共団体が取り組む方策の効果を把握するためにはどのような方法があるか」

第4回 (同上) 事例報告 (Work engagementについて) (予定)

報告書(案) 骨子について

第5回 (3月) 報告書(案)

論点1 「今後、地方公共団体に求められる地方公務員とはどのような人材か」 (① 社会状況の変化と公務員に求められる役割)

社会状況の変化

① 人口的側面

●人口減少・少子高齢化・都市部への人口集中

- ▶ 住民コミュニティの弱体化
- ▶ 人口構造の変化によるサービスの需給面の変化
- ▶ 様々な分野の担い手不足。将来的に自治体職員の
人材供給自体の危機も

② 社会的側面

●人口減少・人口構造の変化

- ▶ 高齢者の増加により、地域における医療・介護や移動
手段の確保等、生活を支えるサービスの需要の増加
- ▶ 人口減少・都市部への人口集中により、経済格差や
教育格差等あらゆる格差が生まれる可能性

●価値観の変化・多様化

●新型コロナウイルス感染症を契機とした「新たな日常」

- ▶ テレワーク、ウェブ会議等を活用した場所にとらわれない
多様で柔軟な働き方、生き方の選択により、地方圏への
新たな人の流れが生まれる可能性

③ 技術革新の側面

●IoT・AIの伸張

- ▶ 地方行政のデジタル化（RPA等の活用による業務効
率化、行政手続きのオンライン化等）
- ▶ 定型性の高い業務のデジタル化・AI化、アウトソーシ
ング等により、将来的にマンパワー不足を改善する必要

公務員に求められる役割

【A 地域運営のコーディネーターの役割】

- 人口減少や格差等の社会的リスクに地域で向き合い、一
人一人が複数の役割を果たすこと等により、地域や組織の
枠を越えて多様な主体が連携し合うネットワーク型社会を構
築し、持続可能で個性的な地域社会を形成することが求め
られる。

【B 住民に寄り添った支援を行う役割】

- きめ細やかな支援を住民に寄り添って行う職員は、時代の
変化に関わらず、常に必要とされる。医療、介護、住まい、
公共交通、生活支援などのニーズの変化を捉えて、地域で
提供する環境の整備と人材が求められる。

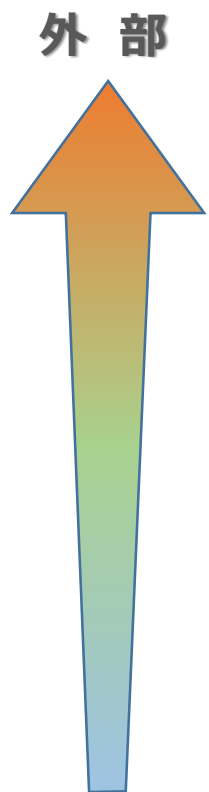
【C デジタルを活用して行政サービスの利便性を向上させる役割】

- 様々なICT技術を活用して、より迅速、正確、効率的な行
政サービスを提供できるようにすることや、行政組織の業務効
率化や業務改善をすることが求められる。

論点1 「今後、地方公共団体に求められる地方公務員とはどのような人材か」 (②「求められる人材像」のたたき台(事務局案))

○ 少子・高齢化により、今後ますます人口減少の進行が予想されるとともに、A I・R P Aの活用など、I C T技術の進展による業務の効率化等が期待される中で、今後、地方公共団体に求められるのはどのような人材か。

「求められる人材像」のたたき台(事務局案)



外部

A. 多様な主体と連携・協働し地域の課題解決に取り組む職員
(住民、企業、NPO等と連携・協働し、地域活性化、まちづくり等を行う)
»求められる能力» ファシリテーション能力 など
…市民協働、観光・シティプロモーション、地域再生、農林水産振興、企業誘致 など

B. 住民の状況に応じて寄り添った支援を行う職員
(自らの判断で考え・行動し、各種行政サービスの直接提供を行う)
»求められる能力» 住民視点で行動する力、コミュニケーション能力 など
…課税・徴収、ケースワーカー、子育て・障がい者支援、住民窓口事務 など

C. デジタルの力を活用して業務の見直し(BPR)を進める職員
(デジタル技術の活用などにより、組織の業務改善や業務効率化、行政サービスの利便性向上に取り組む)
»求められる能力» 技術革新の活用能力の向上、統計データの活用 など
…AI・RPA等を活用した業務効率化、業務改善の取組 など

内部

D 団体が地域の実情を勘案して独自に求める人材

第2回研究会における事例報告について

○**狙い**：論点1（求められる人材像）に焦点を当てて、地域振興や行政改革等において精力的に活躍されている地方公務員に事例を発表いただき、それを踏まえた上で、事務局案（「求められる人材像」のたたき台）を足がかりにして、論点に関する議論を深める。

○**発表者**：3名

- ①北海道北見市 総務部総務課 総務係長 及川 慎太郎 氏
（「書かない窓口」などデジタルを活用した窓口サービス改善等に携わる）
- ②山形県山形市 企画調整部企画調整課 課長補佐 後藤 好邦 氏
（東北OMを発足するなどの活動の他、行政評価、業務改善、税務、高齢者福祉など幅広い分野を経験）
- ③兵庫県朝来市 市長公室総合政策課 課長補佐 兼 創生企画係長 馬袋 真紀 氏
（シティプロモーションやASAGOiNG 人材育成プロジェクトの推進など、地域振興の分野でご活躍）

○**発表時間等**：各発表者から20分程度ずつ発表後、質疑応答・意見交換を50分程度行う。

○**発表依頼内容**：

- ①これまでの経歴、活動内容（精力的に活動を進めるきっかけとなった事柄や、活動する上で大切にしている考え方など）
- ②自身の活動に影響を与えた組織・職場の取組（人材育成に関する方策、職場環境、上司や同僚との関わり合いなど）
- ③論点1「今後、地方公共団体に求められる地方公務員とはどのような人材か。」について、自身の経験に照らして考えられること（地方公務員として働く上で必要だと思われる能力・資質など）
- ④上記③のような人材を育成するために、必要と思われる人材育成の方策